

審査員特別賞

「おいしい！」を世界中に

ノートルダム清心中学校 3年

末廣 万葉

「幸せ」と感じるのはどんな時だろうか。私は、おいしい食べ物をお腹いっぱい食べた時に幸せを感じる。私のように食べている時に幸せを感じる人は世界中にたくさんいるはずだ。しかし、世界では飢えに苦しむ人がたくさんいる。

先日、テレビで「食品ロス」という言葉を聞いた。食品ロスとはまだ食べられるのに捨てられている食べ物のことをいう。日本では年間約 632 万トンにも上り、約半数は家庭から発生しているそうだ。一方、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量は約 320 万トンだそうだ。日本の食品ロスは食料援助量の約 2 倍近くあると分かる。

私は、これを知って「もったいない！私の家では食品ロスは出していないはず」と思った。ところが、食べ残しや、冷蔵庫などに入れたまま期限を越えた食品などが食品ロスとなっていた。

食品ロスは思ったよりも身近な所で発生していると分かった。世界中の人々がおいしい物をお腹いっぱい食べて幸せを感じるためには、食品ロスを減らすことが大切だと思う。

食品ロスは、意外と簡単に減らせると知って、私の家でもロスを減らすための取り組みを始めた。買い物をするときは必要な分しか買わないようにしたり、冷蔵庫の中に入っている食品をメモをして、なるべく使い切るようにした。食事は残さずに食べて、お菓子は小さめの袋を選んだり、保存ができるように袋にチャックがついているものを選ぶようにした。

この取り組みを始めてから、私の家から発生する食品ロスはかなり減ったと思うし、減った分だけ飢えで苦しんでいる人に食べ物を分けれたと考えるととても嬉しくなる。

食品ロスが減ったからといって、すぐに飢えに苦しむ人が減るというわけではないが、食べ物を食べることで幸を感じる人はだんだん増えていくのではないだろうか。

世界ではまだおいしい物をたくさん食べることができない人がたくさんいる。その人たちが幸せを感じられるように私たちができることは無駄遣いを減らすことだと思う。難しそうに聞こえるが、実は簡単で身近な事から始められる。それと、私は「食べることで幸せを世界中の人々が感じられたらいいな」と願うことも大切だと思う。効果があるかどうかは分からないが、願えばいつかは叶うと聞いたことがある。「食べる幸せはみんな感じられる」と信じて、これからも食品ロスを減らす取り組みを続けていきたい。

きっと、「おいしい！」の声が世界中から聞こえてくる日がいつかくるはずだ。私は、その日が1日でも早くくるといいな、と思う。